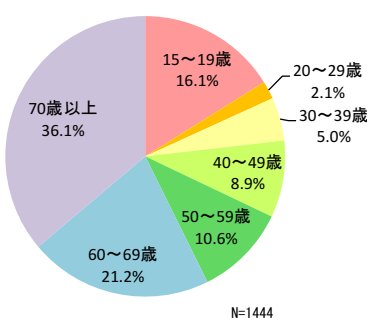


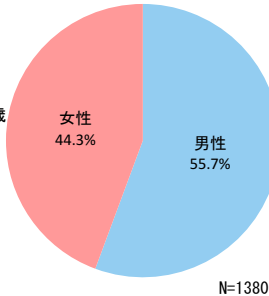
町民アンケート調査（概要版）

項目	内容
調査票の配布対象	むかわ町に住民票をおく全世帯に調査票を郵送配布するとともに、町内の中学3年生と高校生に学校を通じ調査票を配布
回収数（回収率）	一般 1,228票（29.6%） 中高生 159票（87.4%） 中高生（町外） 70票（100.0%） ＜参考：一般地域別内訳＞ ※地区の回答がない票もあり回収数が異なる 鶴川地区の市街地 619票（34.1%） 鶴川地区の市街地外 243票（26.0%） 穂別地区の市街地 218票（25.2%） 穂別地区の市街地外 136票（26.0%）

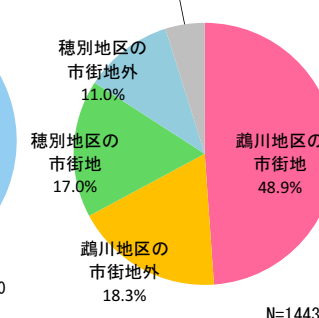
【年齢】



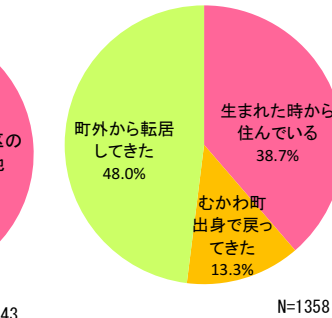
【性別】



【居住地】



【居住経緯】

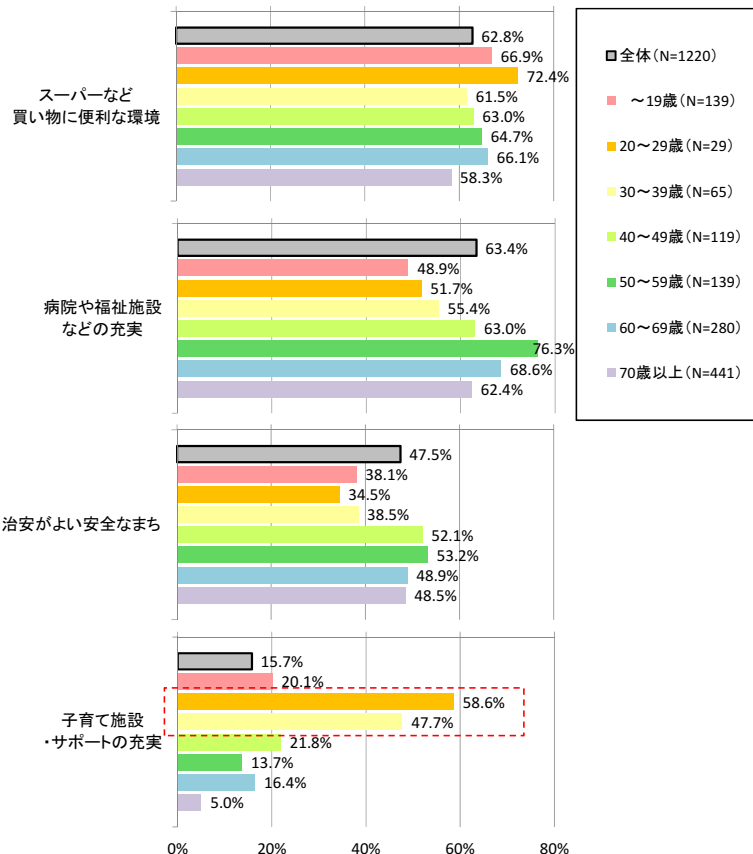
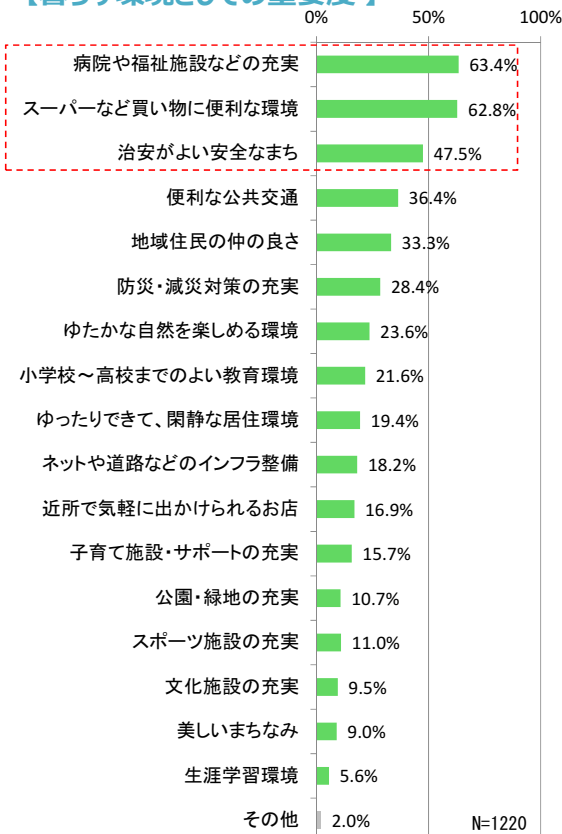


1 暮らす環境として重要だと考える項目（重要度）と、むかわ町での暮らしの満足度

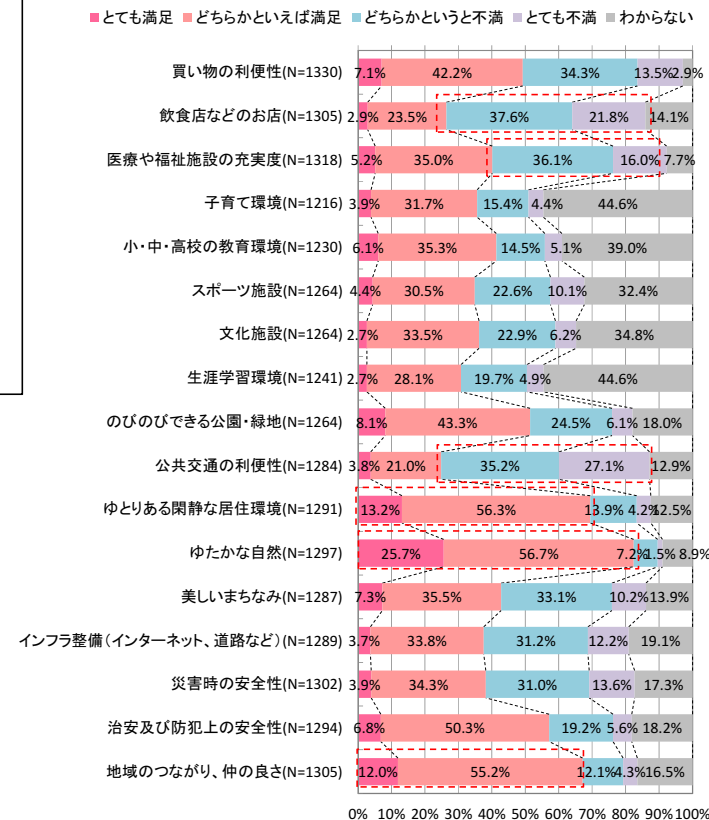
- 重要度が特に高い項目は、「病院や福祉施設などの充実」「スーパーなど買い物に便利な環境」「治安がよい安全なまち」
- 重要度が50%を超える項目について年代別に見ると、上記3項目に加えて、「子育て施設・サポートの充実」が挙げられ、20～30代で特に高くなっている

- 満足度が特に高い項目は、「ゆたかな自然」「ゆとりある閑静な居住環境」「地域のつながり、仲の良さ」
- 満足度が特に低い項目は、「公共交通の利便性」「飲食店などのお店」「医療や福祉施設の充実度」

【暮らす環境としての重要度】

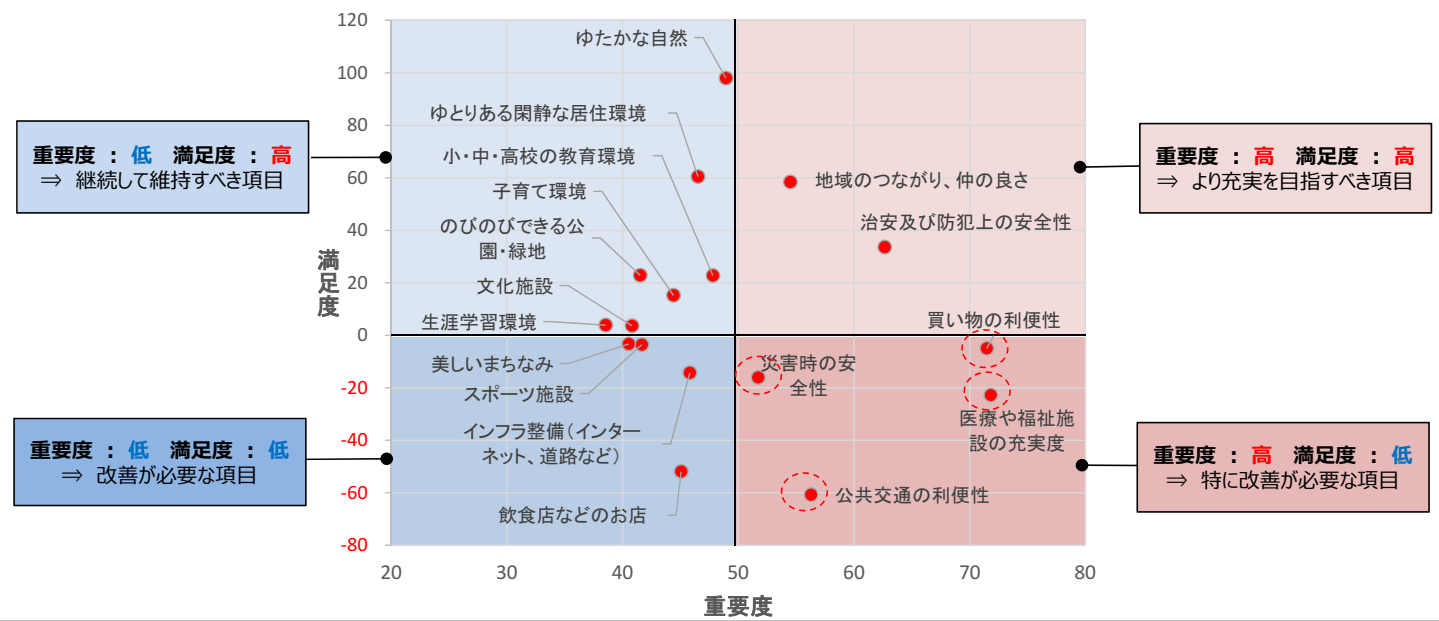


【むかわ町での暮らしの満足度】



<参考> 重要度（横軸）×満足度（縦軸）グラフ

- 「暮らす環境として重要と考える項目」の結果を「重要度」として横軸に、「むかわ町の暮らしの満足度」の結果を縦軸にとり、4象限にまとめると、右図ようになる
- 「医療や福祉施設の充実度」「買い物の利便性」「公共交通の利便性」「災害時の安全性」は、重要度は高いが、満足度が低いため、特に改善が必要な項目となっている
- 重要度は比較的低いものの、満足度が低い項目は、「飲食店などの店」「インフラ整備」「スポーツ施設」「美しいまちなみ」となっている

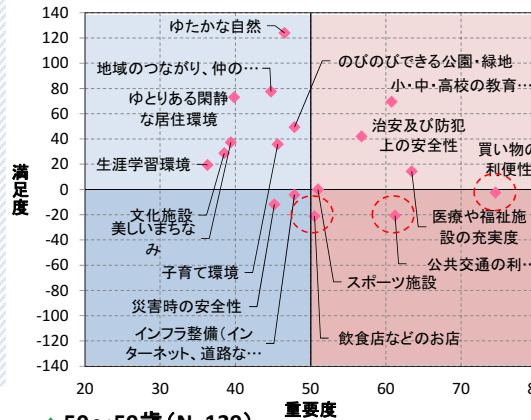


- 年代別に見ると、重要度が高く満足度が低い項目は以下のようになっている

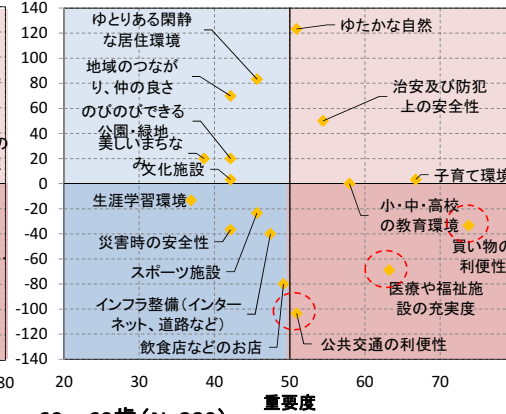
- 10代：「買い物の利便性」「飲食店などの店」「公共交通の利便性」
- 20代：「買い物の利便性」「医療や福祉施設」「公共交通の利便性」
- 30代：「買い物の利便性」「医療や福祉施設」「子育て環境」「小・中・高校の教育環境」
- 40-50代：「買い物の利便性」「医療や福祉施設」「公共交通の利便性」「インフラ整備」「災害時の安全性」
- 60代：「買い物の利便性」「医療や福祉施設」「公共交通の利便性」「災害時の安全性」
- 70代：「公共交通の利便性」

(年代別)

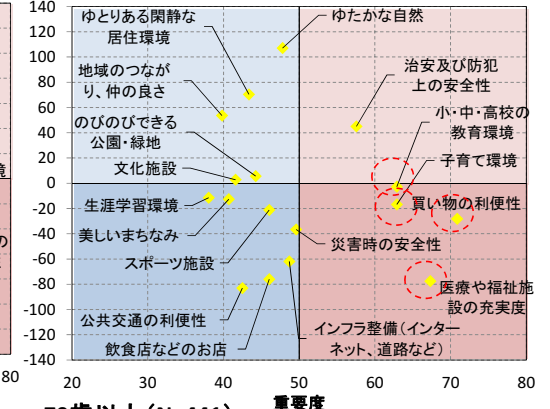
◆ ～19歳 (N=139)



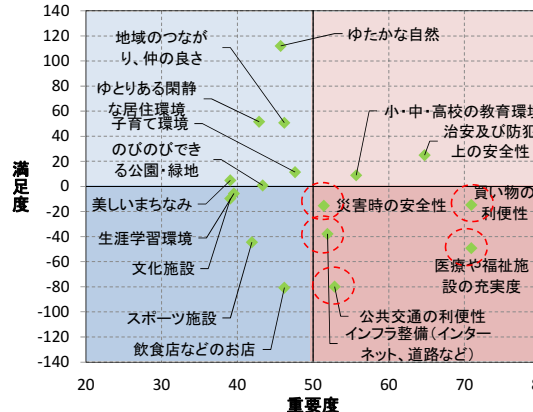
◆ 20～29歳 (N=29)



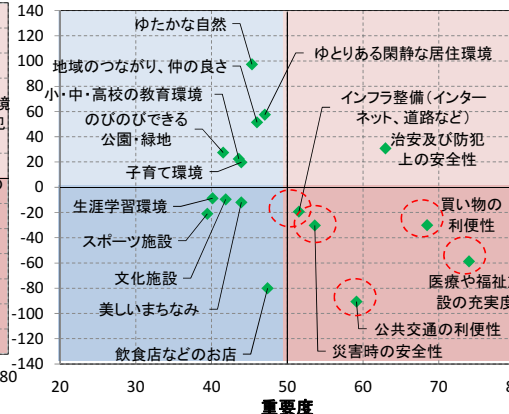
◆ 30～39歳 (N=65)



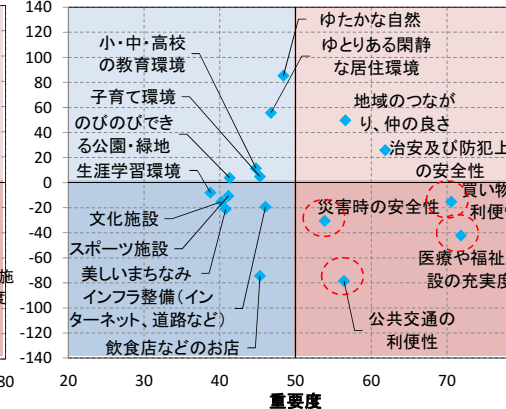
◆ 40～49歳 (N=119)



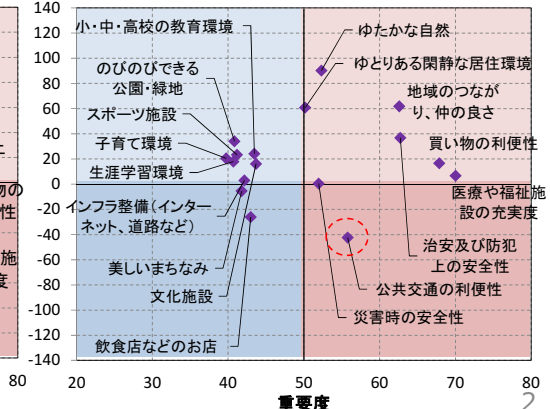
◆ 50～59歳 (N=139)



◆ 60～69歳 (N=280)



◆ 70歳以上 (N=441)

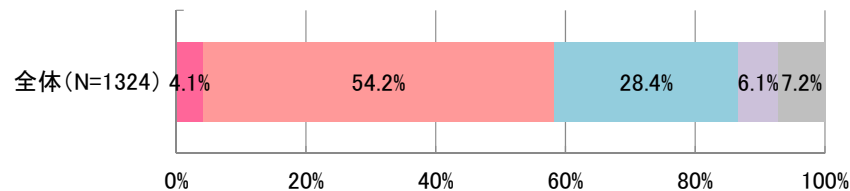


2 総合的な暮らしの満足度

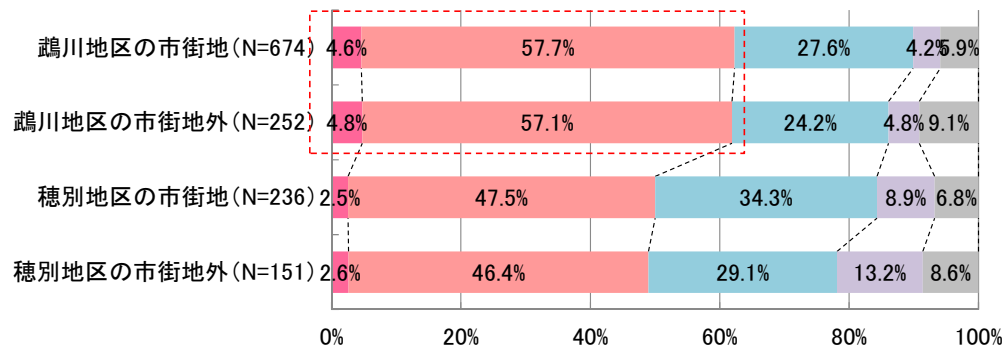
- 全体では、満足（とても満足、どちらかといえば満足）と回答した人は58.3%となっている
- 地域別：鶴川地区では60%以上が満足と回答しているのに対して、穂別地区では50%以下と低くなっている
- 年代別：70代以上では、満足と回答している人が70%と高いのに対して、他の世代では、50%前後となっている

【総合的な暮らしの満足度】

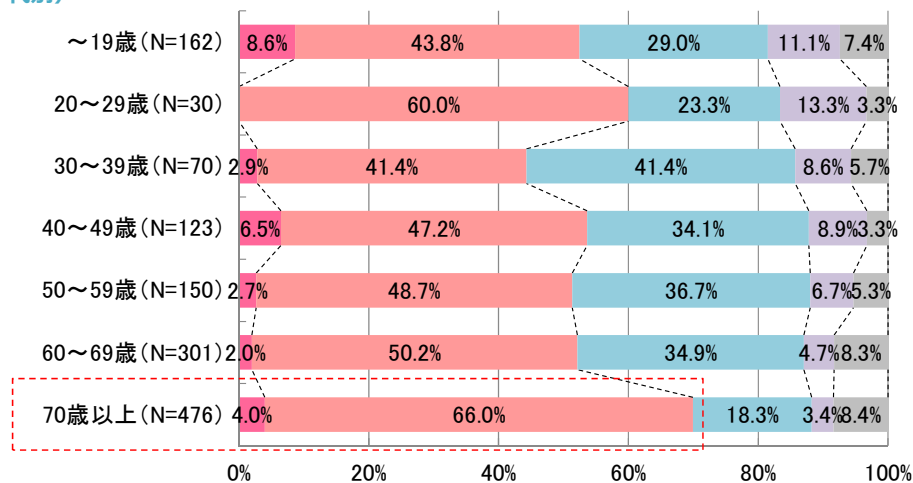
■ とても満足 ■ どちらかといえば満足 ■ どちらかという不満 ■ とても不満 ■ わからない



(地域別)



(年代別)

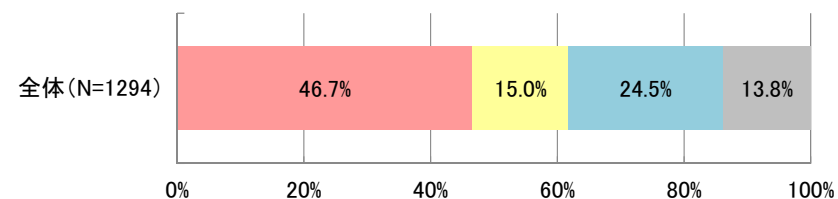


3 将来の居住希望

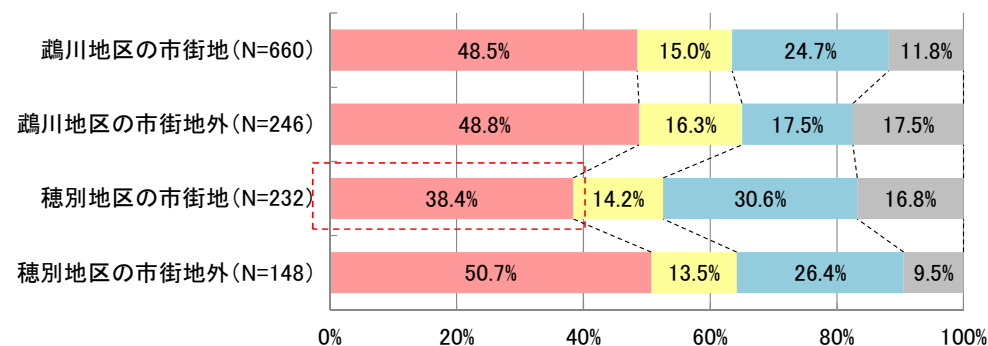
- 将来の希望居住先については、「現在住んでいる地区に住み続けたい」が46.7%と最も多い
- 地域別：穂別地区市街地では「現在住んでいる地区に住み続けたい」が38.4%とほかの地区に比べて低く、「町外に住みたい」という割合が30.6%と高い
- 年代別：若い世代ほど「町外に住みたい」割合が高く、10代～20代では50%以上と非常に高い
- 町外の希望先としては、札幌市、苫小牧市が多く、町内の希望先としては、鶴川地区の市街地が多い

【将来の居住意向】

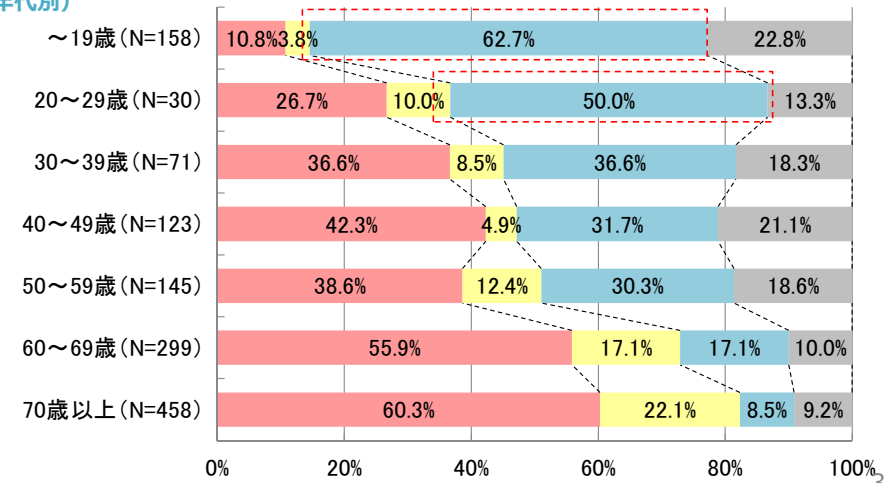
■ 現在住んでいる地区に住み続けたい ■ 町内の別の地区に住みたい ■ 町外に住みたい ■ わからない



(地域別)

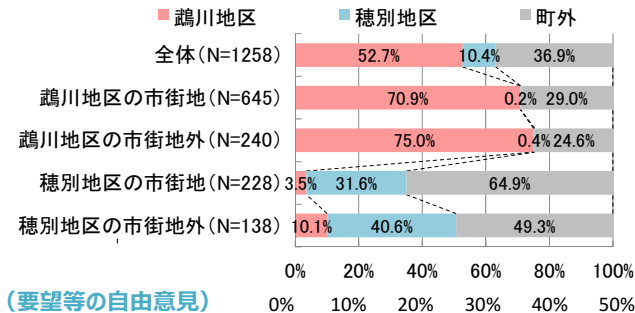


(年代別)

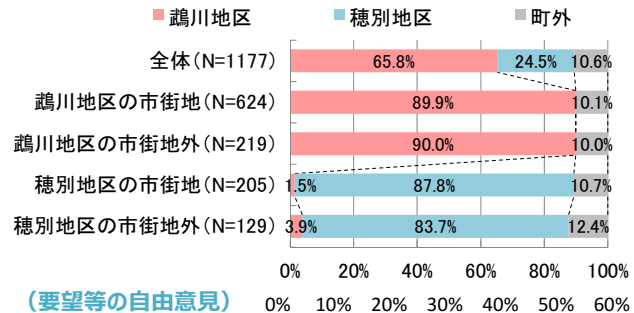


- ・食料品などの買い物：鷗川地区では地区内の施設を利用する人が70%以上であるが、穂別地区では町外の施設を利用する人が多い / 販売商品の充実や交通手段・アクセスの改善を求める声が多い
- ・衣料品・家電・家具などの買い物：いずれの地区も町外の施設を利用する人が70%以上となっている / 販売商品の充実を求める声が多い一方、その他意見としてネット通販を利用するとの回答も多い
- ・銀行・金融機関の利用：いずれの地区も地区内の施設を利用する人が80%以上となっている / 営業時間の拡大を求める声が特に多い
- ・病院や福祉施設などへの通院・通所：鷗川地区では町外の施設を利用する人が60%前後と、穂別地区よりも高くなって / 診療科目の拡充や医療サービスの向上を求める声が多い
- ・文化・スポーツ施設の利用：穂別地区の市街地外では町外の施設を利用する割合が24.6%と、ほかの地区に比べて高くなっている / 施設の整備・改善を求める声が多い
- ・集会施設の利用：いずれの地区もほとんどが地区内の施設を利用している / 施設の整備・改善を求める声が多い

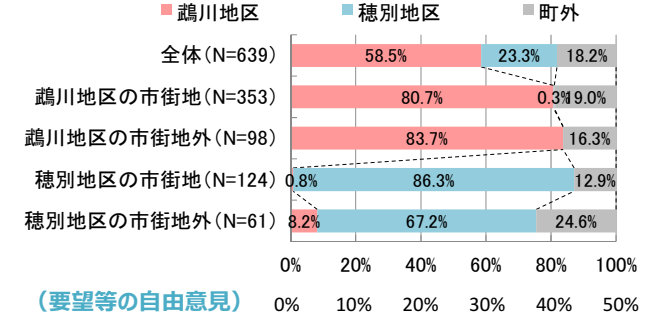
【1】食料品など日常の買い物



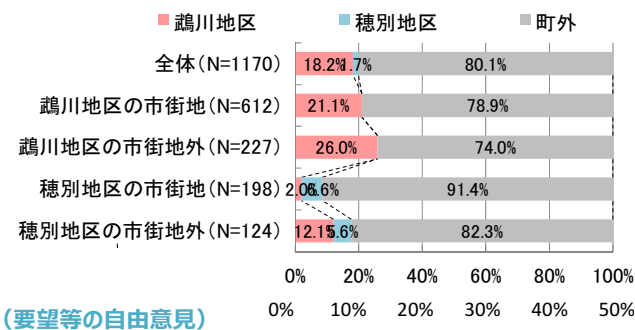
【3】銀行・金融機関の利用



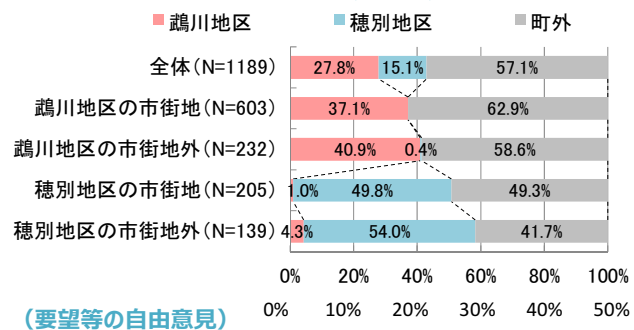
【5】文化・スポーツ施設の利用



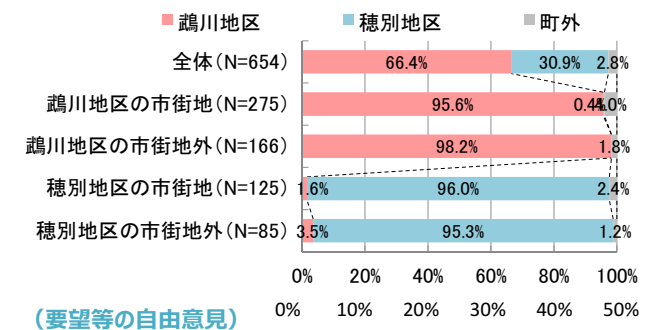
【2】衣料品・家電・家具などの買い物



【4】病院や福祉施設などへの通院・通所



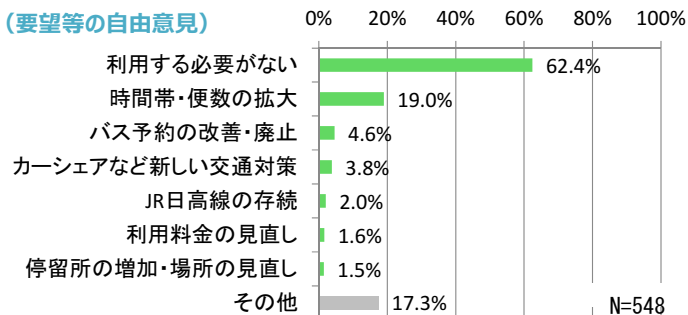
【6】集会施設の利用



5 町内の公共交通の利用状況

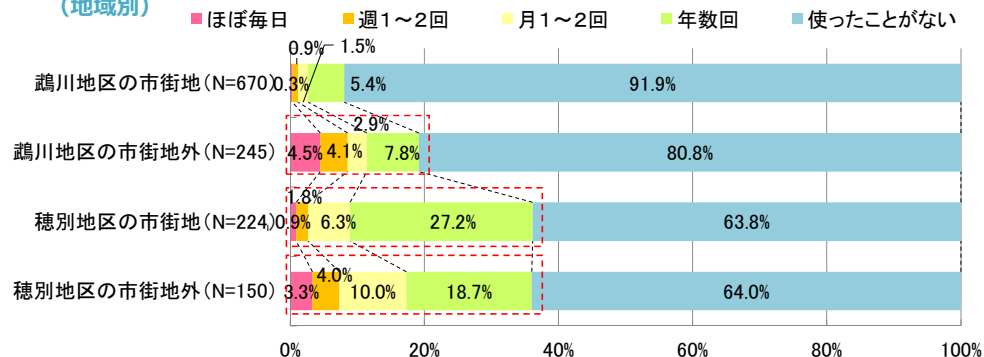
- いずれの公共交通機関についても、「使ったことがない」と回答する人の割合が最も高く、次いで「年数回」となっている
- 要望等の自由意見では「利用する必要がない」という回答が多い
- 特に、町営のコミュニティバスを「使ったことがない」の割合が90.2%、町営の路線バスを「使ったことがない」の割合が81.6%と高くなっている
- 地域別：鶴川市市街地以外では比較的使用が多い
- 年代別：通学利用と考えられる10代が突出しているほか、70代でも比較的使用が多い

（要望等の自由意見）

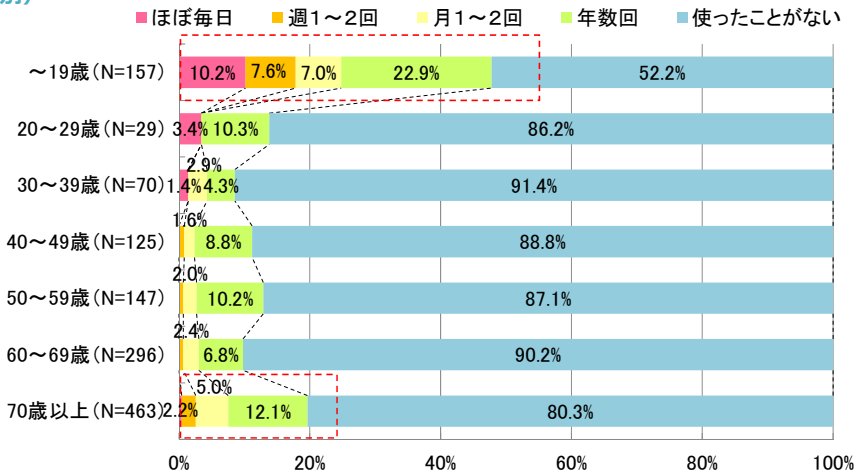


◆町営の路線バス（予約不要）の利用頻度

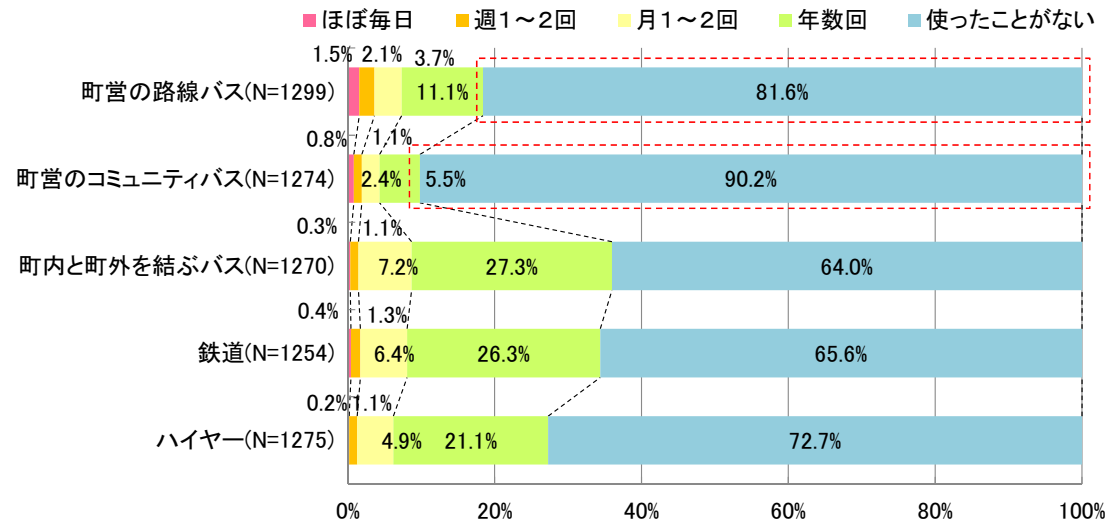
（地域別）



（年代別）

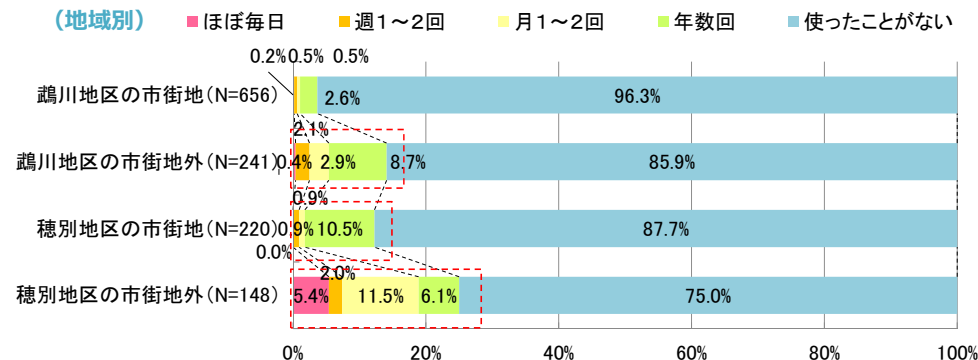


【町内の公共交通の利用頻度】

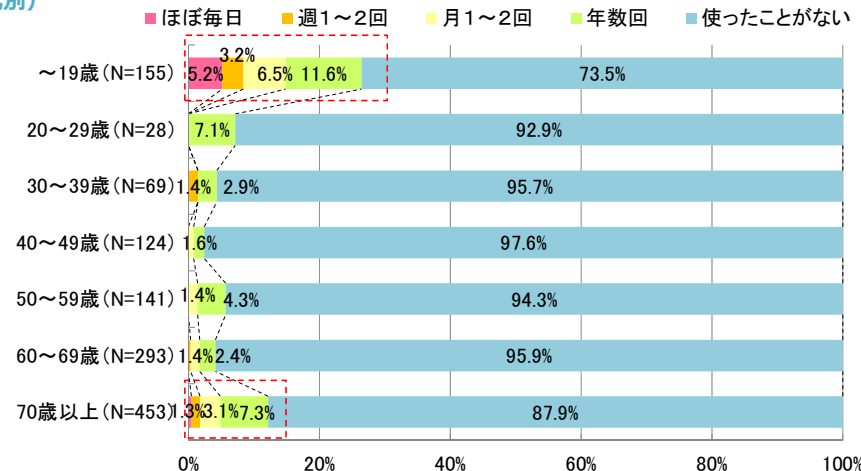


◆町営のコミュニティバス（予約制）の利用頻度

（地域別）



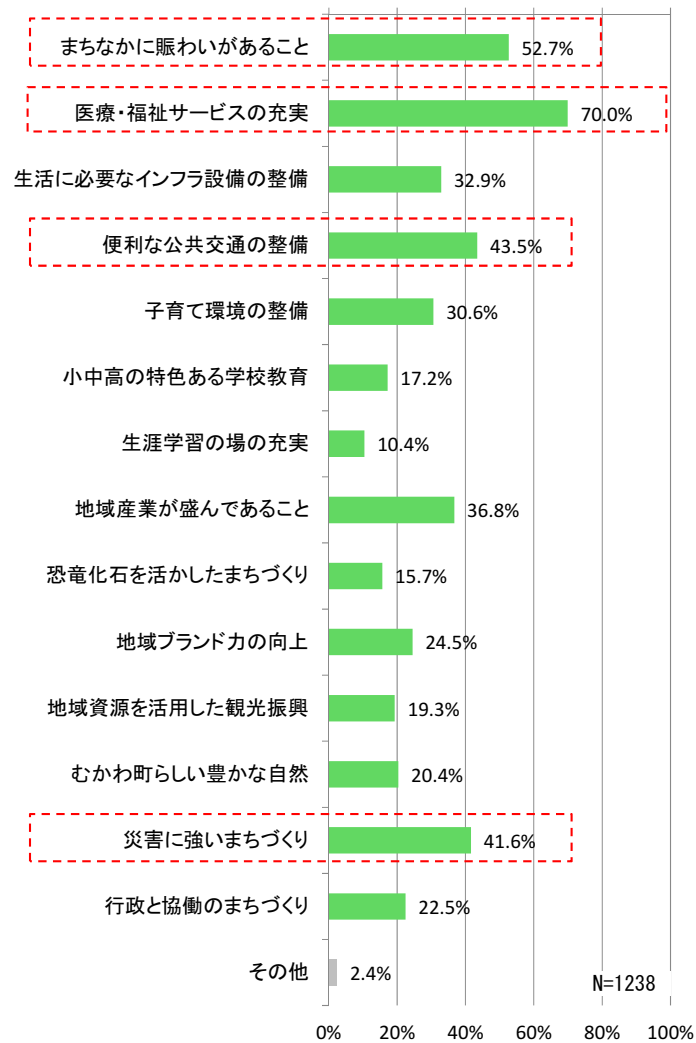
（年代別）



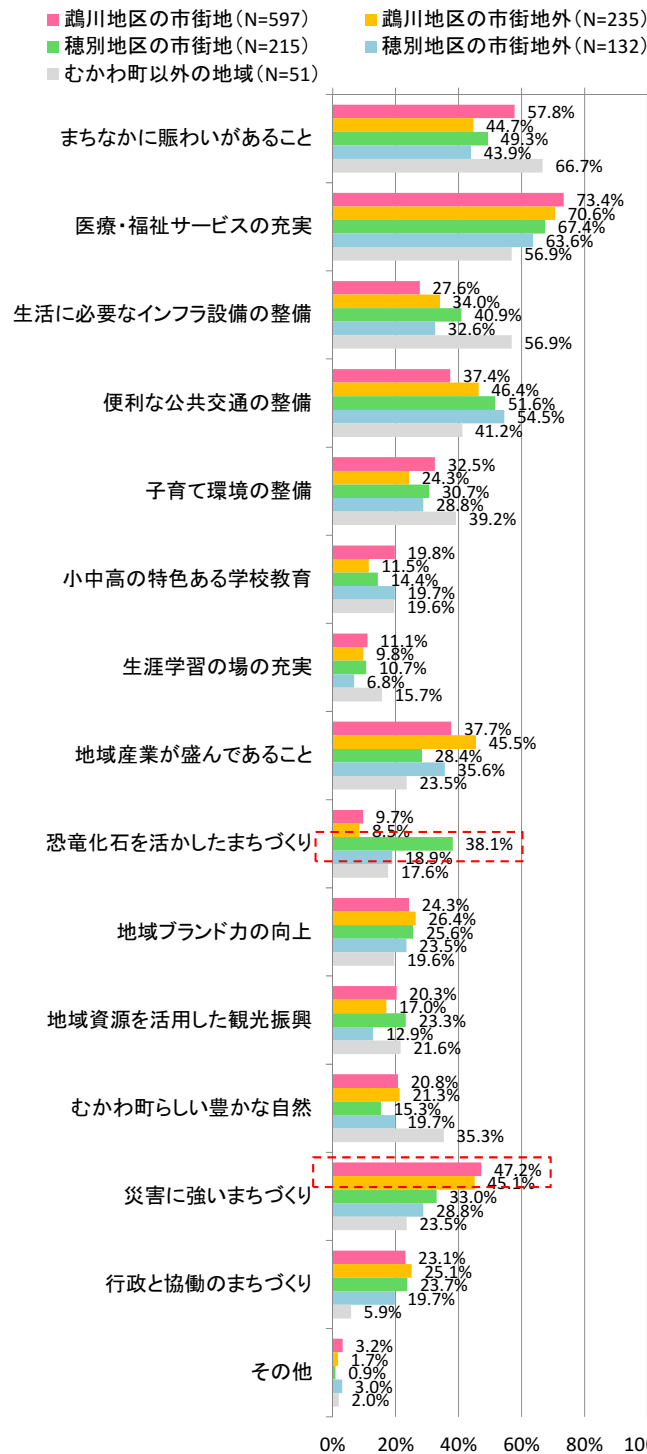
6 今後のまちづくりで重要だと思うこと

- 今後のまちづくりで重要だと思うことについては、「医療・福祉サービスの充実」が70.0%と最も多く、次いで「まちなかに賑わいがあること」「便利な公共交通の整備」「災害に強いまちづくり」となっている
- 地域別：鶴川地区では「災害に強いまちづくり」、穂別地区では「恐竜化石を生かしたまちづくり」が一方の地区に比べて高くなっている
- 年代別：20～30代では「子育て環境」がほかの年代に比べて高くなっている

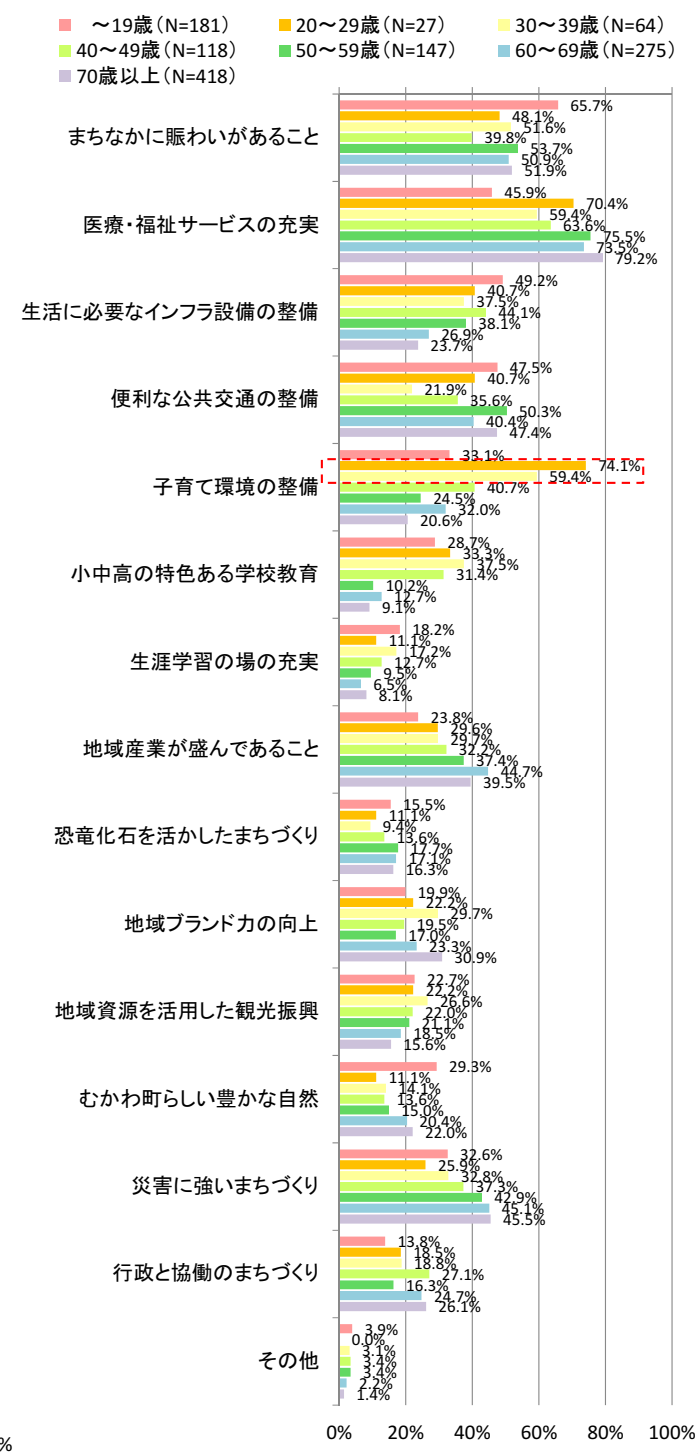
【今後のまちづくりで重要だと思うこと】



(地域別)



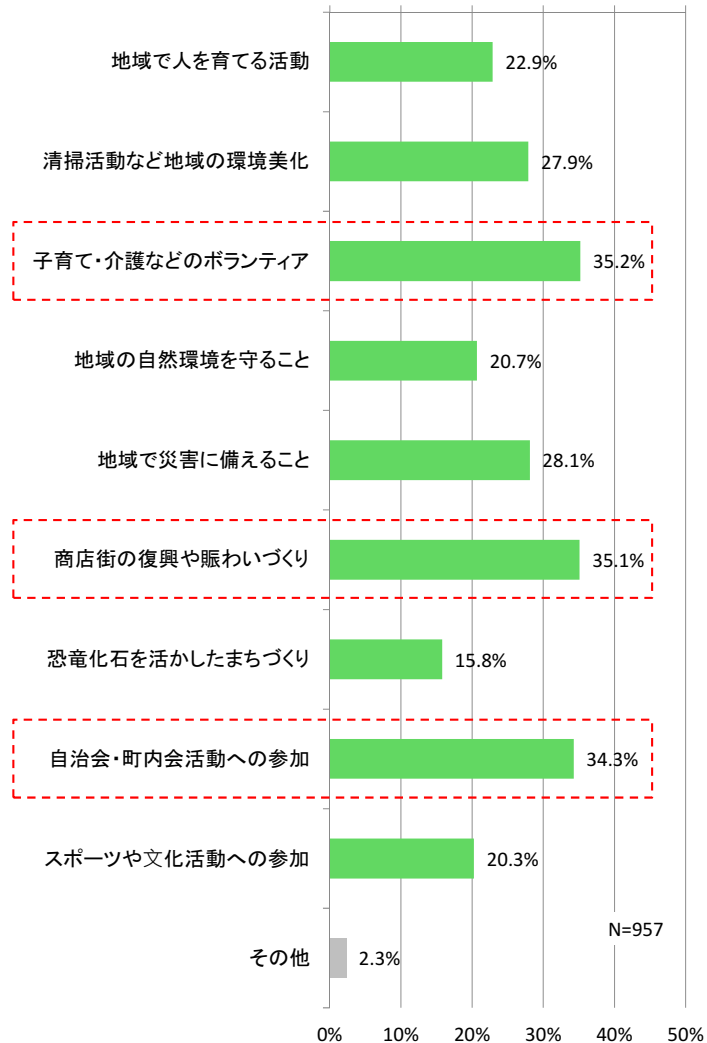
(年代別)



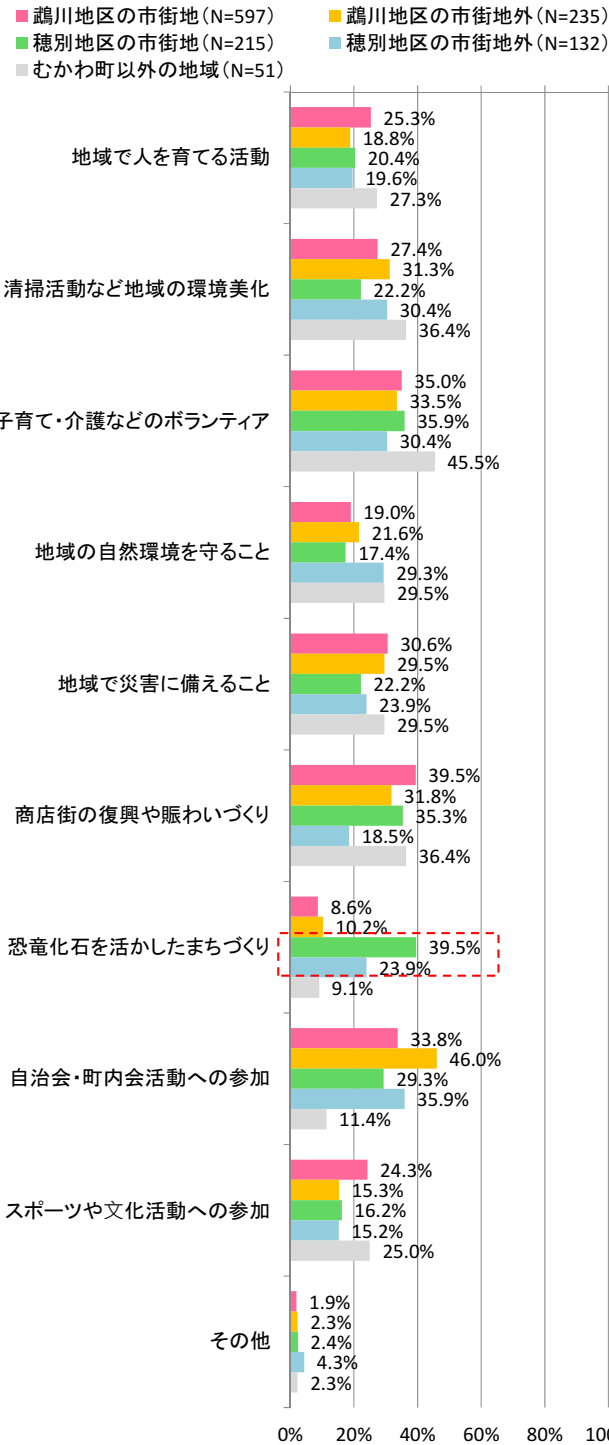
7 協働のまちづくりを進めるうえでやってみたいこと

- 町民と行政が協働のまちづくりを進めるうえでやってみたいことについては、「子育て・介護などのボランティア」が35.2%と最も多く、次いで「商店街の復興や賑わいづくり」、「自治会・町内会活動への参加」となっている
- 地域別：穂別地区では「恐竜化石を活かしたまちづくり」が最も高くなっている
- 年代別：20代では「子育て・介護などのボランティア」が62.5%と他の世代に比べて特に高い／60代以上では「自治会・町内会活動」が多い／30代以下では「スポーツや文化活動への参加」が多いのが特徴的

【協働のまちづくりを進めるうえでやってみたいこと】



(地域別)



(年代別)

